

令和2年度社会福祉法人橘風会事業報告

I. 総括

1. 令和2年度の収支は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、経済の停滞や外出自粛による医療・福祉施設への利用控えが発生したものの、全体で前年度対比100.5%、金額ベースで397万の増加となり、厳しい環境下においても増収を確保することができた。

ねむの丘では、入院者の減少や特定処遇改善加算の通年取得により、前年度対比103.2%、金額ベースで1,496万の増収となり、法人全体の収入増に大きく寄与した。入院者数が前年度1日平均5.1人から2.1人へ減少したことによる稼働率向上が要因となっている。

在宅部門においては、ショートステイでは入院者数の減少に伴う、空床利用の減少や新型コロナウイルス感染対策による入退所の制限を行った結果、前年度対比94.8%、金額ベースで450万の減収となった。デイサービスでは、密を避けるための利用制限や感染を不安視した利用控えが発生し、新型コロナウイルスによる特例加算や第一デイサービスの規模変更に伴う、単価上昇分を含めても前年度対比99.2%、金額ベースで94万の減収となった。ケアプランセンターは昨年まで取得出来ていなかった加算が取得できたことにより前年度対比106.5%の増収となり、例年並みの収支が確保できた。ヘルパーステーションにおいてはサービス提供責任者2名が急遽退職となり、人員体制が整わず、新規利用者の確保が出来なかった事により前年度対比61.8%と大幅な減収となった。

事業支出に関しては、加算取得により上昇が目立っていた、法人全体の人件費は前年対比101.7%と特定処遇改善手当の通年支出により微増となった。新型コロナウイルスの影響により、保健衛生費が前年対比330.2%、金額ベースで164万増加しており、在庫の確保や取得価格の上昇が影響した。課題とされてる修繕費、消耗器具備品費の2項目に関しては、依然として高水準で費用が発生しているが昨年度から120万程度支出が減少しており、経費削減が一定程度効果を示す結果となった。

2. 渋川市より払い下げとなる土地の購入を進め、渋川市北橘町八崎2365番地1の土地に関する取得を行った。

3. 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を使い、業務用加湿器の新設や個別送迎を可能とする車両の増車を行い、感染リスクの軽減をはかりコロナ禍でも安心してご利用いただける環境の整備を行った。

II. 改正事項

1. 定款・規約・規程等の整備

1) 定款

① 社会福祉法人橘風会 定款の一部改正

2) 規約

① なし

3) 規程

① 社会福祉法人橘風会 従来型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームねむの丘運営規程の一部改正

② 社会福祉法人橘風会 ユニット型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームねむの丘運営規程の一部改正

- ③ 社会福祉法人橘風会 指定短期入所生活介護事業運営規定の一部改正
- ④ 社会福祉法人橘風会 指定介護予防短期入所生活介護事業運営規定の一部改正
- ⑤ 社会福祉法人橘風会 通所介護事業所指定通所介護事業運営規程の一部改正
- ⑥ 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号通所事業（通所型サービス）運営規程の一部改正
- ⑦ 社会福祉法人橘風会 通所介護事業所指定通所介護事業運営規程（第二デイサービスセンター虹の家）の一部改正
- ⑧ 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号通所事業（通所型サービス）運営規程（第二デイサービスセンター虹の家）の一部改正
- ⑨ 社会福祉法人橘風会 居宅介護支援事業所運営規定の一部改正
- ⑩ 社会福祉法人橘風会 指定訪問介護事業運営規程の一部改正
- ⑪ 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号訪問事業（訪問型サービス）運営規定の一部改正

Ⅲ. 組 織

1. 役 員（令和3年3月末日現在）

理事長	内田 章 義				
理事	鈴木 基 晴（施設長）	都 丸 宣 彦	丸 橋 正 幸		
	木村 榮 一	村 尾 隆 史			（就任順）
監事	今井 兼 則	都 丸 正 隆			（就任順）
評議員	小林 百合子	萩 原 吉 行	高 橋 睦 男	小 川 志 道	
	林 俊 男	木 暮 秀 子	宇 都 宮 京 子		（就任順）

2. 職 員

(1) 橘風会 総数	142名	常 勤 68名（男31名、女37名）	非常勤 74名（男10名、女64名）
(2) 施設長	1名	常 勤 1名（男 1名）	
(3) 総務部	14名	常 勤 4名（男 3名、女 1名）	非常勤 10名（男 7名、女 3名）
部長	1名	常 勤 1名（男 1名）	
総務係	3名	常 勤 3名（男 2名、女 1名）	
用務	2名	非常勤 2名（男 2名）	
管理当直	3名	非常勤 3名（男 3名）	
洗濯・清掃	5名	非常勤 5名（男 2名、女 3名）	
(4) 施設支援部	68名	常 勤 44名（男21名、女23名）	非常勤 24名（男 1名、女23名）
部長	1名	常 勤 1名（男 1名）	
生活支援係	2名	常 勤 2名（うち、管理栄養士1名）	
介護支援専門員	1名	常 勤 1名（男 1名）	

第一介護係	28名	常勤16名(男9名、女7名) 非常勤12名(男1名、女11名)
第二介護係	36名	常勤24名(男9名、女15名) 非常勤12名(男0名、女12名)
(5) 医務課	14名	常勤5名(看護師3名、准看護師2名) 非常勤9名(看護師2名、准看護師7名)
医務係	11名	常勤3名(看護師2名、准看護師1名) 非常勤8名(看護師2名、准看護師6名)
機能訓練指導員	3名	常勤2名(看護師1名、准看護師1名) 非常勤1名(看護師0名、准看護師1名)
(6) 在宅支援部	45名	常勤14名(男6名、女8名) 非常勤31名(男2名、女29名)
課長	1名	常勤1名(男1名)
通所介護事業所	28名	常勤5名(男3名、女2名) 非常勤22名(男1名、女21名)
運転手	1名	非常勤1名(男1名)
居宅介護支援事業所	6名	常勤5名(男1名、女4名) 非常勤1名(男0名、女1名)
訪問介護事業所	8名	常勤1名(サービス提供責任者) 非常勤7名(登録ヘルパー)
地域包括支援センター	3名	常勤3名(男2名、女1名)

IV. 会 議

1. 理 事 会

開催年月日	開催名	議 題 内 容
令和2年 5月23日	第1回理事会	議案第1号 令和元年度社会福祉法人橘風会事業報告並びに資金収支決算(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録)の認定について [監査報告] 議案第2号 市有財産払い下げに伴う、土地の購入について 議案第3号 令和2年度社会福祉法人橘風会第一次資金収支補正予算について 議案第4号 社会福祉法人橘風会 評議員候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人橘風会 評議員会の開催について 議案第6号 社会福祉法人橘風会 評議員選任・解任委員会の開催について
令和2年 7月28日 (書面決議終結日)	第2回理事会 (書面決議)	議案第7号 社会福祉法人橘風会 定款の一部改正について 議案第8号 社会福祉法人橘風会 評議員会の開催について
令和3年 3月6日	第3回理事会	議案第9号 令和2年度社会福祉法人橘風会第二次資金収支補正予算について 議案第10号 令和3年度社会福祉法人橘風会事業計画並びに資金収支予算について 議案第11号 社会福祉法人橘風会 ユニット型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームねむの丘運営規程の一部改正について 議案第12号 社会福祉法人橘風会 従来型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームねむの丘運営規程の一部改正につ

		いて 議案第13号 社会福祉法人橘風会 指定短期入所生活介護事業運営規程の一部改正について 議案第14号 社会福祉法人橘風会 指定介護予防短期入所生活介護事業運営規程の一部改正について 議案第15号 社会福祉法人橘風会 通所介護事業所指定通所介護事業運営規程の一部改正について 議案第16号 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号通所事業（通所型サービス）運営規程の一部改正について 議案第17号 社会福祉法人橘風会 通所介護事業所指定通所介護事業運営規程（第二デイサービスセンター虹の家）の一部改正について 議案第18号 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号通所事業（通所型サービス）運営規程（第二デイサービスセンター虹の家）の一部改正について 議案第19号 社会福祉法人橘風会 居宅介護支援事業所運営規定の一部改正について 議案第20号 社会福祉法人橘風会 指定訪問介護事業運営規程の一部改正について 議案第21号 社会福祉法人橘風会 介護予防・日常生活支援総合事業における指定第1号訪問事業（訪問型サービス）運営規程の一部改正について 議案第22号 社会福祉法人橘風会 評議員会の開催について
--	--	--

2. 監査会

開催年月日	事業内容
令和2年 5月 8日	令和2年度 監査会（令和元年度決算監事監査）
令和2年11月27日	平成2年度 上半期会計監査会

3. 評議員会

開催年月日	開催名	議題内容
令和2年 6月 6日	第1回 評議員会	議案第 1号 令和元年度社会福祉法人橘風会事業報告並びに資金収支決算（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録）の認定について [監査報告] 議案第 2号 市有財産払い下げに伴う、土地の購入について 議案第 3号 令和2年度社会福祉法人橘風会第一次資金収支補正予算について
令和2年 8月 7日 （書面決議終結日）	第2回評議員 会（書面決議）	議案第 4号 社会福祉法人橘風会 定款の一部改正について
令和3年 3月20日	第3回 評議員会	議案第 5号 令和2年度社会福祉法人橘風会第二次資金収支補正予算について 議案第 6号 令和3年度社会福祉法人橘風会事業計画並びに資金収支予算について

4. 評議員選任・解任委員会

開催年月日	開催名	議題内容
令和2年 6月 6日	第1回評議員選任・解任委員会	議案第 1号 第9期評議員の選任について

5. その他

開催年月日	事業内容
令和2年 5月 8日	苦情解決報告会
令和2年 5月	第1回家族会総会（書面決議） 苗の植え付け
令和2年 9月21日	第2回家族会 施設内で紅白饅頭作りを行う
令和2年10月30日	入所判定委員会の開催
令和2年12月 9日	第3回家族会 餅つき
令和3年 3月 9日	入所判定委員会の開催

V. 事業（目標）結果

1. 総務部

<目標>

- 外国人介護人材確保に向けた準備段階に入り、技能実習生・留学生等、法人のニーズに合った人材の確保に向けて、関係機関と調整を行っていきます。
- 災害等に備え、必要な業務が継続できるよう危機管理体制の向上を図ります。
- 建物及び設備等の適正な管理、見直しを実施します。修繕及び機器の更新を計画的に行い、故障リスクの軽減を図り、修繕に関するコスト意識を高めます。

<結果>

- 厚生労働省及び渋川市が行う外国人介護人材確保事業を活用し、助成金対象指定の企業と採用に向けた交渉を開始した。
- 事業継続計画書（BCP）の策定を行い、災害時の基本方針を明確にした。
- 故障頻度の多い設備に関しては、入れ替えを検討し、修繕コストの軽減を図るとともに、設備の更新に関する計画を策定した。

法人共通研修

令和2年 4月22日	諸規程・社会人としてのマナー、処遇改善について
令和2年 5月20日	食中毒とその予防について
令和2年 6月17日	褥瘡の予防について
令和2年 8月19日	身体拘束 言葉による拘束スピーチロックについて
令和2年 9月23日	認知症ケアユマニチュード技法について
令和2年10月21日	ノロウイルス感染症演習研修（感染対策）
令和2年11月18日	身体拘束 言葉による拘束スピーチロックについて
令和2年12月16日	新型コロナウイルス感染リスク防止について
令和3年 1月20日	アドバンスケアプランニングについて（ターミナル）
令和3年 2月17日	アドバンスケアプランニングについて（ターミナル）

2. 施設支援部

ねむの丘基本方針

- 親孝行の視点で利用者の心に寄り添うケアを提供します。
- 『ねむの丘ケア方針』に基づいた愛情あるケアを提供します。

各部署の目標

① 生活相談員

<目標>

ご利用者が望む、医療・ケアについて、ご本人ご家族及びケアチームで話し合い、『本人にとって最も良いと思われる』最善の判断へつなげる支援を提供します。

- アドバンスケアプランニングについて職員及びご家族が知ることができる。
- 利用者の状態を把握し、医療及びケアについて検討する必要性を判断し多職種連携が図れる。

<結果>

- 職員には随時アドバンスケアプランニングに関する資料の配布及び施設内研修で人生のクライマックスを彩る支援の必要性を伝えた。
- 状態の変化に応じ、家族及び他職種で連携し、タイムリーなカンファレンスを開催することで、ご本人及びご家族が望むケア・医療へとつなげる関わりができた。

② 介護支援専門員

<目標>

ケアプランの必要性を多職種で理解し、プランに沿った支援を提供します。

- 介護支援専門員が介護過程の理解を深め、施設全体のケアプランの意識が高まるように周知する。
- 日々、ケアプランに沿った記録ができる。
- ターミナル期の介護支援専門員の在り方を共有し利用者、家族が安心して終末期を過ごせる。

<結果>

- 介護過程をケアマネ間で学び、介護過程の考え方を共有できた。
- ケアプランに沿った記録について各組で方法を考え、ケアプランに沿った記録が浸透してきた。
- ターミナルケアの振り返りを行うことで課題を共有しターミナルケアの考えを共有できた。

③ 管理栄養士

<目標>

個々の摂食状況やニーズを把握し、安全に美味しく食事ができることで栄養状態の維持向上を図れるよう支援します。

- 栄養状態や咀嚼嚥下機能の変化に気付き、予防や改善のための支援ができる。
- 生活の楽しみとなるような食事の提供ができる。
- 食事についての課題が改善に向けて共有できる。

<結果>

- 多職種連携し、嚥下機能や栄養状態に合わせて食事の形態・内容を検討した。
- 外出行事ができない分、行事や季節を感じられるようなメニューを献立に取り入れた。
- 日々の食事をより良いものにするために、給食業者と課題を共有し、連携を図った。

④ 介護係

第一係橋組

<目標>

ご利用者の希望や願いを把握しご利用者主体の支援を提供します。

- ご利用者が何を望んでいるのかを考え寄り添うことができる。
- 個人の目標に向けて取り組むことでスキルアップを目指し質の高いケアを提供できる。

<結果>

- ご利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったケアを提供することで笑顔を引き出すことができた。

- 個人目標に向かって計画・活動することで自分自身の成長に繋がりケアに活かすことができた。

第一係風組

<目標>

常にご利用者やご家族の喜びや笑顔が引き出せるようチーム一丸となって支援を提供します。

- ご利用者を大切な存在だと思い、その人らしい生活を送って頂くための対応をチームで話し合い実践する。
- ご家族やご利用者の想いを職員間で共有しケアすることで信頼を得る。
- 日々、楽しく生活する為に何をすれば良いかを考え、行事等を提供する機会を作る。

<結果>

- 認知症の理解、ご利用者に対しての接遇について一定の改善は見られた。
- ご家族の面会時で普段の様子を伝えることでご家族と情報共有ができた。
- 手作りおやつや日々のレクなどを行うことで、楽しみに繋げることができた。

第二係花組

<目標>

個別の生活リズムに合わせたケアを提供し、ご本人が望む活動を増やし楽しいと思える日々を支援します。

- ご利用者の生活リズムを把握することで望む生活を送ることができる。
- ご利用者のご家族の願いや望みを確認し実施できる。

<結果>

- 一人ひとりの生活の理解に努め、起床時間など見直すことで朝の個別ケアを提供できた。
- 本人の希望に沿った行事を行うことができ、写真をブログやポスターで、ご家族と共有することができた。

第二係月組

<目標>

ご利用者一人ひとりの生活を深く知り、ご本人が望む支援をご家族の協力を得て提供します。

- アセスメント結果をコミュニケーション情報シートにまとめ活用できる。
- レクリエーションやイベントを通しご家族とご利用者の関わる機会を作る。

<結果>

- 情報シートを元にご利用者の想いを知り、実施することで笑顔に繋げることができた。
- レクリエーションやイベントはご利用者の要望などを聞き取り実施し笑顔に繋げることができたが、家族との関り感染予防の観点から実施できなかった。

第二係宙組

<目標>

希望の持てる毎日が送れるように、日々喜びや楽しみを感じられる支援を提供します。

- 個々のご利用者の趣味や習慣、好きな事について考え実施することができる。
- ご利用者のニーズや身体の状態に合わせたレクリエーションを実施することができる。

<結果>

- 毎月対象のご利用者を決めて喜び楽しみに関する事柄を実施し評価しながら個々のご利用者が喜びや楽しみを感じながら過ごせるように取り組むことができた。
- 毎月対象のご利用者を決め、その方のニーズに合わせたレクリエーションを企画しその方を中心としながら他のご利用者も一緒にレクリエーションを実施することができた。

第二係星組

<目標>

日々を“楽しみと喜び”を持って生活していただく為に、“想いと願い”を実現できるケアを提供します。

- アセスメント表の見直し、心豊かなコミュニケーション情報シートの更新を行い、日常でできる余暇活動、必要なケアを導き出す。
- 掃除、環境整備箇所の役割を明確にし、環境整備を行う。
- ご家族との連絡事項、情報共有を密に行える。

<結果>

- 毎月対象利用者を選定し本人の願いや喜ばれたことなどを「心豊かな情報シート」にまとめ、日々の関わりの中で会話に活かし、願いを叶えることができた。
- リビングの整理整頓や毎月担当を決めベッド周辺の環境整備を行うことができた。
- ご家族へ伝えることなどをノートに記載し漏れなく、ご家族に伝えることができた。

第二係楓組

<目標>

ご利用者・ご家族の願いや願いを知り関わることで、笑顔で過ごして頂けるように支援を提供します。

- ご利用者の思いや願いを叶えることで、笑顔で活気のある生活が送れる。
- ご利用者の願いを含んだ行事の企画と実施ができる。

<結果>

- ご利用者の思いや願いを聞き取る関わりができた。また、記録に残すことでコミュニケーションの幅が増え、笑顔を引き出す関わりを行うことができた。
- 季節の行事だけでなく、食べたいものや、やりたいなどご利用者主体の行事を行うことができた。

第二係桜組

<目標>

ご利用者一人ひとりの願いを叶え、生き生きとした生活を提供します。

- ご利用者の願いや希望を確認し実施することができる。
- ご利用者の生活リズムを把握し個別ケアが提供できる。

<結果>

- ご利用者の「喜び・希望・楽しみ」を知り、それらの情報を共有し実現することで、個々の希望を叶えることができ笑顔に繋がられた。また「喜び・希望・笑顔」をまとめることでご利用者・ご家族との繋がりに役立てられた。
- 個別ケアシートを作成しご利用者一人ひとりの生活リズムを把握することで、起床時間等個別のケアを行うことができた。

⑤ 短期入所生活介護

<目標>

在宅での生活を把握しショートステイ利用時に自宅に近い生活が送れ、楽しく居心地の良い生活を提供します。

- 個々のご利用者をアセスメントし楽しめること、できることをチームで共有し実践できる。
- 受入れ時のアセスメントを強化し現場と共有できる。その方にとって必要な事柄が記録できる。
- 認知症の理解を深め、相手の気持ちや行動を理解した介護ができる。優しさのある言葉がけができる。

<結果>

- 日々の様子を記録しご利用者の楽しみに繋げることができた。
- 新規利用者を受け入れる際、アセスメントを細かく行い活用することでスムーズな利用に繋げることができた。
- 認知症の理解、接し方について指導したことで一定の改善は見られた。

3. 医務課

基本方針

- 本人・家族の代弁者となり自己決定の支援をします。

⑥ 医務係

<目標>

ご利用者・ご家族の希望する医療を知り最期の時まで安全で安楽な看護を提供します。

- 利用者の安楽な看取りの実践のために多職種で連携することができる。
- 家族の希望に沿った支援ができる。

<結果>

- アドバンスケアプランニングの考え方がスタッフ間で浸透し、適切な時期にカンファレンス実施することができた。多職種連携し利用者の全身状態に応じたケアを実施したことにより、苦痛な様子なく最期を迎えることができたと家族より言葉を頂くことができた。
- 終末期に家族が点滴実施を希望するケースが増えている。施設で点滴を実施できることにより、入院はさせたくない、ねむの丘で最期を迎えたいという家族の意向に沿うことができた。

⑥ 機能訓練

<目標>

ご利用者・ご家族の希望や想いを確認し身体機能に合わせた機能訓練を行います。

- 3ヶ月ごとのモニタリングや状態変化時に情報収集を行い、速やかに変更できる。
- 新たな個別機能訓練計画書の作成に取り組んでいく。

<結果>

- ご利用者の身体機能の急な変化時は、介護職員と情報共有することでプランの見直しが行えたが、緩やかな状態変化時は、プランの見直しが遅れる傾向にあった。
- ご利用者の身体機能を確認し、ご利用者やご家族の意向に沿ったプランを立案し実施できた。

⑦ 各委員会

リスクマネジメント委員会

<目標>

事故を未然に防ぐために「気づき」の視点の向上を図り、起こってしまった事故に対しては迅速に原因を分析し再発防止策を講じます。

- KYT（危険予知訓練）の実施により気づきの能力の向上ができる。
- 普段から気付いたことを記録に残しチームで共有し、対策を考え事故を未然に防ぐことができる。また起きてしまった事故や出来事に対して迅速にチームで改善策を講じ共有することで同様の事故を起こさない。
- 急変時の緊急対応を訓練し職員が不安なく迅速に対応することができる。

<結果>

- KYTについて動画やイラストを交えて、情報共有を行い、気づきの向上に繋がった。
- 事故報告について、その都度振り返り同じ事故を起こさないように全体で情報共有ができた。
- 夜間想定 of 緊急時訓練を行い、夜間の対応力の向上に繋がった。

資質向上委員会

<目標>

理念及び基本方針・ケア方針を常に思考し、ご利用者の想いに寄り添うことで質の高いサービスを提供します。

- 職員一人ひとりが基本方針を理解してご利用者をかけがえのない存在として親孝行の視点で援助を思考し実施する。
- ケア方針研修を通して知識・技術を共有する。

<結果>

- 基本方針に基づき各組で目標を定め、進捗状況を毎月確認し合うことで、相乗効果が得られた。年度末には各組の取り組みをまとめ「事例発表会」を開催し目標に対する取り組みを振り返り成果を共有することができた。
- ケア方針に沿った研修をすることで「伝え手」、「受け手」共に学ぶことができケアの質の向上につながった。

食事改善・食中毒対策委員会

<目標>

ミールラウンドを通して、摂食嚥下能力を見定めて食事継続の有無を適切に判断することで、安全に口から食べる楽しみ喜びを支援します。

- 多職種連携により、安全に口から食べられるための支援ができる。
- 看取り期に向けた、食事の支援ができる。

- 食中毒と予防について知識を深める。

<結果>

- 歯科衛生士、言語聴覚士もかかわったことで安全に配慮した食事の支援ができた。
- 本人に合わせた食事内容を検討するとともに、摂食嚥下能力を見定めて、安全に食べるための支援ができた。
- 法人共通研修にて、食中毒と予防について知識を深めた。

排泄委員会

<目標>

多職種で連携し、腸内環境に配慮した快適な排泄ケアを提供します。

- その人らしい排泄をサポートできる。
- 適切な排泄物品を選び、排泄トラブルの軽減に努める。
- 腸内環境と排便への理解を深め、快適な排泄ケアが提供できる。

<結果>

- ご利用者個々の排泄アセスメントを行い、ケアへの展開することができた。
- 各フロアで排泄アセスメントを行い、ご利用者個々の状態に応じた必要物品の選定を行い排泄物品が起因する皮膚トラブル発生を抑えることができた。
- 取り組み内容の情報共有を行い、各フロアで無理なく排便を促すケアに繋げることができた。

感染症対策委員会

<目標>

感染症のメカニズムを理解し適切な対策を講じることで発生及び蔓延を未然に防ぐケアを提供します。

- 平常時の感染症対策を基に、新型コロナウイルスの感染症対策を実践できる。
- 感染症について理解を深めることができる。

<結果>

- 平常時の清掃は、チェック表を活用し定着することができ、利用者の日々の変化を共有することができた。
- 標準予防策を実践できるように、指導することができた。

身体拘束委員会

<目標>

ご利用者の気持ちを理解し、行動制限することなく寄り添うケアを提供します。

- 言葉による拘束（スピーチロック）を理解し、防ぐことができる。
- ストレスチェックを実施し、職員間で話し合い業務改善できる。

<結果>

- スピーチロックに関するポスターを作成し、各ユニットに掲示することで身体拘束につながる行為や拘束による弊害について周知することができた。
- 委員会内でストレスを感じるケア場面を募り、対応策を話し合うことでストレスの軽減につなげることができた。

褥瘡委員会

<目標>

個別の褥瘡計画に基づき、適正な物品の管理とポジショニングについて取り組み、多職種連携で褥瘡を予防するケアを提供します。

- 個別の褥瘡計画に基づき多職種連携でケアを行うことで褥瘡の予防ができる。
- 適切な物品の管理ができることで適正な物品の使用ができて褥瘡の予防ができる。

<結果>

- 褥瘡対策に関するケア計画書を作成することで褥瘡の危険性を認識でき予防することができた。
- 褥瘡予防物品を適切に管理し使用することができた。

広報委員会

<目標>

法人利用者はもとより、より多くの人に法人のことを知ってもらえるよう情報を発信していきます。

- ふれあい便り年 4 回の発行、ブログの更新を通し施設での生活の様子をお伝えすることで、ご家族との良好な関係を築くコミュニケーションのひとつになる。

<結果>

- ブログの投稿が 40 件/月ありご利用者の様子を多く紹介することができました。ふれあい便りを年 4 回発行しねむの丘の楽しい雰囲気を紹介できた。

入退所状況

【従来型】

	1日現在 在在所者数	退所者数	退所理由	新規入所者数	新規 平均介護度	新規平均年齢	備考
4月	39人	1人	長期入院	2人	介護5	80.5歳	在宅×1 病院×1
5月	40人	1人	死亡(病院)				
6月	39人	1人	看取り	2人	介護4	90.5歳	在宅×2
7月	40人						
8月	40人	3人	長期入院×2 看取り	2人	介護4.5	76歳	有料ホーム×1 小規模多機能×1
9月	40人	1人	看取り	2人	介護4.5	89歳	老健×1 ユニット×1
10月	40人	1人	死亡(病院)				
11月	39人	1人	看取り	1人	介護4	89歳	在宅×1
12月	40人	1人	看取り	2人	介護4	80歳	在宅×2
1月	40人	1人	死亡(病院)				
2月	40人			1人	介護4	81歳	病院×1
3月	40人	1人	看取り				
合計		12人	看取り×6人 死亡(病院)×3人 長期入院×3人	12人	介護4.3	83.5歳	在宅×6人 病院×2人 老健×1人 有料×1人 小規模×1人 ユニット×1人

※ 退所者：平成 28 年 7 名(看取り 5 名)平成 29 年 9 名(看取り 5 名)平成 30 年 6 名(看取り 3 名)
令和元年 10 名(看取り 6 名) 令和 2 年 12 名(看取り 6 名)。

【ユニット型】

	1日現在 在在所者数	退所者数	退所理由	新規入所者数	新規 平均介護度	新規平均年齢	備考
4月	59人	1人	看取り×1	2人	介護5	92歳	老健×2
5月	59人	1人	看取り×1	2人	介護3.5	87.5歳	在宅×1 病院×1
6月	60人	1人	看取り×1				
7月	59人			1人	介護5	90歳	在宅×1
8月	60人	2人	看取り×2	1人	介護4	94歳	在宅×1
9月	59人	1人	既存型へ×1	1人	介護4	88歳	在宅×1
10月	59人	1人	看取り×1	2人	介護4.5	95.5歳	老健×2
11月	60人	2人	看取り×2	2人	介護3.5	74.5歳	在宅×2
12月	60人	1人	看取り×1				
1月	59人	2人	看取り×2	2人	介護5	86.5歳	在宅×1 有料ホーム×1
2月	59人	4人	看取り×4	4人	介護4	93.2歳	在宅×3 病院×1
3月	59人	2人	看取り×2	2人	介護4.5	97歳	在宅×2
合計		18人	看取り×17 既存型×1	19人	介護4.2	90.0歳	在宅×12人 老健×4人 病院×2人 有料×1人

※ 退所者：平成 28 年 17 名(看取り 2 名)平成 29 年 19 名(看取り 7 名)平成 30 年 15 名(看取り 9 名)
令和元年 24 名(看取り 18 名) 令和 2 年 18 名(看取り 17 名)

※ 入退所者数が増加傾向にあり約 3 割の入れ替わりとなっている。

※ 入所時の平均年齢も既存 83.5 歳、ユニット 90 歳と高齢化していることから在所日数も減少すると思われる。

※ 死亡退所者の看取り比率は、ユニットについては全利用者、既存については 6 割が施設での看取りとなり増加している。

※ 入退所者の増加及び有料老人ホーム等の民間施設の増加もあり、待機者が減少している。

※ 新規入所者の 31 人中 14 名がショート利用者からの入所となり在宅からの入所が増加している。

○ 入所者の状況

【従来型】

要介護度	性	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	男	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3
	女	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
平均介護度		4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3

※ 平均介護度：平成30年度介護4.2、令和元年度4.4、令和2年度4.3。

【ユニット】

要介護度	性	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	男	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3
	女	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
平均介護度		4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3

※ 平均介護度：平成30年度介護4.1、令和元年3.9、令和2年4.3と重度化している。

○ 入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	一日平均
既存	43日	48日	73日	32日	20日	8日	23日	18日	17日	5日	31日	42日	360日	0.9人
ユニット	24日	33日	42日	16日	36日	67日	31日	25日	46日	39日	15日	69日	433日	1.1人
合計	67日	81日	115日	48日	56日	75日	54日	43日	63日	44日	46日	101日	793日	2.1人
一日平均	2.2人	2.6人	3.8人	1.5人	1.8人	2.5人	1.7人	1.4人	2.0人	1.4人	1.6人	3.2人	入院率 既存：2.47% ユニット：1.98%	

※ 令和元年度平均一日平均入院者5.1人から2.1人と減少。

※ 累計入院者1,893人から793人と1,100人減少。

○ 稼働状況(ショートを含めた稼働率)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
既存 延べ	1148人	1194人	1101人	1209人	1191人	1190人	1209人	1173人	1217人	1229人	1091人	1187人	1178人
ユニット 延べ	1749人	1810人	1759人	1826人	1816人	1734人	1811人	1746人	1815人	1791人	1617人	1772人	1770人
ショート 延べ	572人	618人	608人	574人	562人	602人	566人	550人	547人	555人	517人	566人	569人
既存 稼働率	95.67%	96.29%	91.75%	97.50%	96.05%	99.17%	97.50%	97.75%	98.15%	99.11%	97.41%	95.73%	96.84%
ユニット 稼働率	97.17%	97.31%	97.72%	98.17%	97.63%	96.33%	97.37%	97.00%	97.58%	96.29%	96.25%	95.27%	97.01%
ショート 稼働率	95.33%	99.68%	101.33%	92.58%	90.65%	100.33%	91.29%	91.67%	88.23%	89.52%	92.32%	91.29%	93.66%
全体 稼働率	96.06%	97.76%	96.94%	96.08%	94.78%	98.61%	95.39%	95.47%	94.65%	94.97%	95.33%	94.09%	95.84%

※ 入院者の減少に伴い入所の稼働率は微増したが、新型コロナウイルスによる影響と待機者減少に伴いショートから入所者が増加したこともありショートの稼働率が104%から93%と減少した。全体の稼働率も97.9%から95.8%と減少した。

○ ショート利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	44人	36人	51人	47人	48人	47人	49人	51人	46人	49人	41人	43人	552人
延べ日数	572人	618人	608人	574人	562人	602人	566人	550人	547人	555人	517人	566人	6837人
一日平均	19.0人	19.9人	20.2人	18.5人	18.1人	20.0人	18.2人	18.3人	17.6人	17.9人	18.4人	18.2人	18.7人

※ 新型コロナウイルスに伴う利用控え及び感染予防策としてショートフロア以外のショート利用を制限したことで、空床利用が減少した。令和元年度一日平均20.8人から18.7人と減少した。

4. 在宅介護課

(1) デイサービスセンター虹の家

<目標>

ご利用者・家族の希望に可能な限りお応えし、心身共に自立した日常生活を送れるように支援します

<結果>

- ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら感染予防を行い、感染者を出すことなく安全に事業を継続することが図れた。
- ・行事や余暇活動に関しても感染予防を行い縮小しながらの実施だったが、新たな行事・新しいレクリエーションの考案など充足を図り、従来とは違うものの利用者からの満足が得られた形となった。
- ・家族からの個別対応の要望も多く聞かれ、可能であるものは即対応し信頼関係を得られる結果となった。

(2) 第二デイサービスセンター虹の家

<目標>

ご利用者とスタッフが笑顔でふれ合い、家族のような関係を築くことで居心地の良い場を提供し、楽しみや生きがいをもって利用いただく。また機能訓練や認知症予防活動の充実を図り、在宅での生活が継続できるよう支援します。

<結果>

- ・新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、利用自粛の協力を頂きながら事業の継続が図れた。また適宜、感染症対策を講じて、ご利用者が安心して利用できるよう年間を通して感染対策情報を発信したことで、ご家族、居宅介護支援事業所との信頼関係向上につなげることができた。
- ・機能訓練や行事については感染症対策を講じて、新たなメニューや行事内容を考案したことで、制限のある中でも意欲、楽しみをもちながら活動して頂き、体力の維持を図れたことで多くのご利用者が利用を継続することができる結果となった。

デイサービスセンター虹の家 利用状況報告 (令和二年度)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	累計	平均
開館日	26	27	25	27	27	25	157	26	26	25	24	25	26	152	309	26
要支援1	8	10	8	9	11	8	54	8	9	8	8	4	0	37	91	8
要支援2	26	30	41	45	38	39	219	44	34	26	39	44	62	249	468	39
要支援延利用人員	34	40	49	54	49	47	273	52	43	34	47	48	62	286	559	47
要支援一日平均	1.3	1.5	2.0	2.0	1.8	1.9	1.7	2.0	1.7	1.4	2.0	1.9	2.4	1.9	1.8	1.8
介護度1	294	290	271	276	274	242	1647	260	248	242	252	257	244	1503	3150	263
介護度2	241	246	251	290	266	257	1551	248	225	216	195	194	208	1286	2837	236
介護度3	93	120	115	116	109	113	666	93	104	118	89	114	142	660	1326	111
介護度4	37	40	14	11	19	10	131	9	10	17	18	19	20	93	224	19
介護度5	7			9	7	7	30	10	8	11	20	13	13	75	105	9
要介護延利用人員	672	696	651	702	675	629	4025	620	595	604	574	597	627	3617	7642	636.8
要介護一日平均	25.8	25.8	26.0	26.0	25.0	25.2	25.6	23.8	22.9	24.2	23.9	23.9	24.1	23.8		24.73
延利用人員数	706	736	700	756	724	676	4,298	672	638	638	621	645	689	3,903	8,201	1,640
一日平均	27.2	27.3	28.0	28.0	26.8	27.0	27.4	25.8	24.5	25.5	25.9	25.8	26.5	25.7		26.5
令和二年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	累計	平均
開館日	26	26	26	27	26	26	157	27	25	26	22	24	27	151	308	26
要支援1	4	4	8	13	12	14	55	6	8	12	11	11	17	65	120	10
要支援2	61	57	58	58	47	49	330	54	56	56	45	41	48	300	630	53
要支援延利用人員	65	61	66	71	59	63	385	60	64	68	56	52	65	365	750	63
要支援一日平均	2.5	2.3	2.5	2.6	2.3	2.4	2.5	2.2	2.6	2.6	2.5	2.2	2.4	2.4	2.4	2.4
介護度1	229	219	250	326	319	307	1650	328	289	308	190	216	278	1609	3259	272
介護度2	201	198	204	186	176	153	1118	160	164	157	142	133	150	906	2024	169
介護度3	136	117	129	133	135	114	764	138	119	101	88	93	119	658	1422	119
介護度4	23	17	21	22	10	11	104	12	9	22	20	19	17	99	203	17
介護度5	13	11	11	10	20	18	83	21	12	9	6	10	11	69	152	13
要介護延利用人員	602	562	615	677	660	603	3719	659	593	597	446	471	575	3341	7060	588.3
要介護一日平均	23.2	21.6	23.7	25.1	25.4	23.2	23.7	24.4	23.7	23.0	20.3	19.6	21.3	22.1		22.9
延利用人員数	667	623	681	748	719	666	4,104	719	657	665	502	523	640	3,706	7,810	1,562
一日平均	25.7	24.0	26.2	27.7	27.7	25.6	26.1	26.6	26.3	25.6	22.8	21.8	23.7	24.5		25.4

第二デザイナーサービスセンター虹の家 利用状況報告（令和二年度）

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	累計	平均
開館日	26	27	25	27	27	25	157	26	26	25	24	25	26	152	309	26
要支援1	16	18	15	15	17	12	93	23	17	12	11	8	6	77	170	14
要支援2	92	87	75	89	85	81	509	79	64	63	57	60	57	380	889	74
要支援延利用人員	108	105	90	104	102	93	602	102	81	75	68	68	63	457	1059	88
要支援一日平均	4.2	3.9	3.6	3.9	3.8	3.7	3.8	3.9	3.1	3.0	2.8	2.7	2.4	3.0	3.4	3.4
介護度1	174	198	144	159	151	160	986	179	211	203	183	173	165	1114	2100	175
介護度2	146	156	159	166	171	160	958	125	132	125	148	204	260	994	1952	163
介護度3	32	64	63	74	50	35	318	36	28	25	26	28	22	165	483	40
介護度4	15	15	27	28	55	50	190	38	39	32	35	37	39	220	410	34
介護度5	0	0	0	0	0	0	0	14	15	14	13	15	16	87	87	7
要介護延利用人員	367	433	393	427	427	405	2452	392	425	399	405	457	502	2580	5032	419.3
要介護一日平均	14.1	16.0	15.7	15.8	15.8	16.2	15.6	15.1	16.3	16.0	16.9	18.3	19.3	17.0		16.285
延利用人員数	475	538	483	531	529	498	3,054	494	506	474	473	525	565	3,037	6,091	1,218
一日平均	18.3	19.9	19.3	19.7	19.6	19.9	19.5	19.0	19.5	19.0	19.7	21.0	21.7	20.0		19.7
令和二年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	累計	平均
開館日	26	26	26	27	26	26	157	27	25	26	24	24	27	153	310	26
要支援1	13	7	7	10	4	10	51	8	8	10	8	8	10	52	103	9
要支援2	50	39	54	53	50	67	313	67	66	61	50	54	56	354	667	56
要支援延利用人員	63	46	61	63	54	77	364	75	74	71	58	62	66	406	770	64
要支援一日平均	2.4	1.8	2.3	2.3	2.1	3.0	2.3	2.8	3.0	2.7	2.4	2.6	2.4	2.7	2.5	2.5
介護度1	176	133	162	169	159	151	950	132	151	137	101	112	117	750	1700	142
介護度2	183	167	174	144	180	176	1024	177	172	178	151	140	173	991	2015	168
介護度3	23	20	49	51	57	50	250	43	44	41	45	46	45	264	514	43
介護度4	38	45	33	40	48	44	248	36	26	31	30	32	35	190	438	37
介護度5	15	15	16	17	17	15	95	16	15	17	6	10	24	88	183	15
要介護延利用人員	435	380	434	421	461	436	2567	404	408	404	333	340	394	2283	4850	404.2
要介護一日平均	16.7	14.6	16.7	15.6	17.7	16.8	16.4	15.0	16.3	15.5	13.9	14.2	14.6	14.9		15.6
延利用人員数	498	426	495	484	515	513	2,931	479	482	475	391	402	460	2,689	5,620	1,124
一日平均	19.2	16.4	19.0	17.9	19.8	19.7	18.7	17.7	19.3	18.3	16.3	16.8	17.0	17.6		18.1

(3) 居宅介護支援事業所

<目標>

1人1人の想いに沿った質の高いケアマネジメントが行え、頼りにされる介護支援専門員になる。

<結果>

- ・ ご利用者の希望、心身の状況、生活環境、ご家族の支援状況等を把握するように努め、ご利用者一人ひとりが望む生活を実現できるように支援を行うことができた。
- ・ ご利用者、ご家族より相談を受けた際には迅速に対応を行うことで信頼関係を構築することができた。
- ・ ご利用者の入退や退院の時期にはなるべく病院にうかがうように務め、病院関係者と連携を行いご利用者、ご家族が安心して在宅生活を過ごせるように退院支援を行うことができた。
- ・ サービス計画書作成数（担当数）において介護給付、予防給付ともに減少した。

主な活動内容

- ① サービス計画書の作成
- ② 自宅訪問による相談
- ③ サービス担当者会議の開催
(介護保険証の更新時又はサービス内容の変更時)
- ④ モニタリング（評価）
- ⑤ 各居宅サービス事業所、行政機関、主治医（医療機関）との連携
- ⑥ 各種申請の代行手続き
・ 介護保険要介護申請代行
- ⑦ 自己研鑽（事業所内研修毎週1回、外部研修）
- ⑧ 他法人共同事例検討会の開催（1回開催）
- ⑨ 書類の整備

令和2年度	給付管理票提出数	1,583件	(介護給付)
		327件	(予防給付)
令和元年度	給付管理票提出数	1,652件	(介護給付)
		369件	(予防給付)

令和元年度居宅介護支援事業所 要介護度別担当者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	比率
要介護1	50	54	51	48	49	49	52	48	46	48	47	44	586	35%
要介護2	43	43	42	49	48	47	45	46	46	44	46	49	548	33%
要介護3	31	30	29	26	25	26	22	23	25	25	24	25	311	19%
要介護4	13	13	13	12	13	13	10	9	10	9	10	13	138	9%
要介護5	4	5	6	9	8	6	6	5	5	5	5	5	69	4%
要介護累計	141	145	141	144	143	141	135	131	132	131	132	136	1652	
要支援1	11	11	11	10	11	10	12	11	9	8	6	5	115	31%
要支援2	23	22	23	20	21	20	20	20	20	20	20	18	247	67%
総合事業対象者	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7	2%
要支援累計	34	33	34	30	32	33	33	32	30	29	27	24	369	

令和2年度居宅介護支援事業所 要介護度別担当者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	比率
要介護1	45	46	50	48	47	48	47	47	49	45	45	48	565	36%
要介護2	47	47	45	43	41	39	43	41	41	42	39	33	501	32%
要介護3	24	21	20	21	22	22	23	23	22	23	24	26	271	17%
要介護4	14	16	17	14	13	17	14	14	15	15	18	17	184	12%
要介護5	5	5	5	5	7	7	5	5	4	4	5	5	62	4%
要介護累計	135	135	137	131	130	133	132	130	131	129	131	129	1583	
要支援1	8	7	8	9	9	8	8	8	9	9	10	10	103	31%
要支援2	17	17	17	17	18	20	20	19	19	20	19	18	221	68%
総合事業対象者	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1%
要支援累計	26	25	26	26	27	28	28	27	28	29	29	28	327	

(4) ヘルパーステーションねむの丘

<目標>

ヘルパーの仕事に対して自信と誇りを持ち常に笑顔で接し、ご利用者の笑顔を引き出し、信頼関係を築けるような支援をする。

<結果>

- 日々の業務に対し、一人ひとりが責任を持ち、個々のご利用者の目標達成に向け情報を共有し・協力し合いケアを行うことができた。
- 定期的にヘルパー研修を開催し、ヘルパーの資質向上を図ることで家族との信頼関係を築くことができ、気持ちに寄り添った支援が出来た。

令和元年度要介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要支援1	6	6	6	5	4	5	5	5	5	3	3	3	56
要支援2	4	4	4	4	5	5	5	5	3	2	2	2	45
要介護1	9	11	10	10	11	10	10	10	7	5	3	2	98
要介護2	9	7	9	8	8	8	6	7	4	4	3	3	76
要介護3	6	6	7	7	6	7	6	6	4	4	4	4	67
要介護4	0	1	1	2	2	2	2	2	1	0	0	0	13
要介護5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
総合計(人)	35	36	38	37	37	37	34	35	24	18	15	14	360

令和2年度要介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要支援1	3	2	2	2	2	2	3	4	5	4	4	4	37
要支援2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	3	3	4	40
要介護1	2	2	2	2	3	4	5	6	5	6	7	6	50
要介護2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	1	2	1	16
要介護3	5	5	5	5	5	6	6	6	7	6	8	8	72
要介護4	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
要介護5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総合計(人)	14	15	14	14	14	18	21	22	22	21	25	24	224

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和元年度	56	45	98	76	64	13	5	357
令和2年度	37	40	50	16	72	9	1	225
比較増減	-19	-5	-48	-60	+8	-4	-4	-135

訪問介護事業所 型別年間サービス提供数

訪問 介 護	令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	比率
	件数	27名	29名	30名	33名	32名	30名	28名	28名	19名	16名	13名	11名	296名	
	回数	444	465	430	449	504	468	376	364	236	211	169	4189	4,305	
	(身体型)	233	259	236	216	223	203	129	122	109	112	84	101	2,027	47%
	(身体生活)	81	84	80	107	132	131	131	125	67	54	39	32	1,063	25%
	(生活援助)	130	122	114	126	149	134	116	117	60	45	46	56	1,215	28%
	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	比率
	件数	11名	14名	12名	12名	12名	15名	18名	19名	15名	16名	18名	16名	178名	
	回数	161	187	175	178	166	173	190	210	194	183	221	247	2,285	
	(身体型)	98	101	103	110	105	104	123	120	112	100	110	123	1,309	57%
(身体生活)	30	37	31	30	39	39	51	62	60	56	66	73	574	25%	
(生活援助)	33	35	41	38	22	30	46	28	22	27	45	51	418	18%	

(5) 渋川市北橋地域包括支援センター

<目標>

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるように、介護予防の視点を持ち、普及、啓発活動を行い、地域の高齢者の生活を総合的に支えていく拠点としての機能強化を目指します。

<結果>

(1) 総合支援事業

高齢者の各種相談に幅広く総合的に対応し、ひとり暮らし高齢者に対しては積極的に個別訪問を実施し高齢者の困りごとに対して、必要なサービスや制度を紹介し、解決に導きくことができた。

(2) 権利擁護事業

必要に応じて関係機関と連携しながら、高齢者の方が安心して生活できるように、様々な権利を守り、成年後見制度の活用、虐待被害の対応、防止、早期発見に努めることができた。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント事業

地域の医療機関や介護事業所を把握し、連携協力体制を構築することで、圏域内で暮らす高齢者の課題解決や調整を行うことができた。

(4) 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業対象者の趣旨に沿って、要支援認定者に係る適切なマネジメント業務を行い、身体状況の悪化を防ぎ、自立した生活が継続できるように介護予防を目的とした支援を行うことができた。

令和2年度 茨川市北橋地域包括支援センター事業実施報告書

区分		当年度累計
開所日数		259日
基本情報作成数		41件
相談実績		3,050
相談方法	電話（延べ）	1,776
	来所（延べ）	268
	訪問（延べ）	570
	その他（延べ）	436
相談内容が主に認知症に係る件数 （延べ）	65歳以上	94
	65歳未満	0
実態把握（一人暮らし高齢者）		91
権利擁護に関する相談件数		165
相談方法	成年後見（延べ）	7
	措置の支援（延べ）	0
	地域福祉権利擁護（延べ）	6
	高齢者虐待（延べ）	149
	消費者被害（延べ）	3
ケアマネジメント支援（プランチェック含）		39
介護予防支援	委託	218
	包括	98
介護予防ケアマネジメント	委託	218
	包括	127
国保連請求数		661
国保連請求数（返戻・修正・過誤）		3
基本チェックリスト（総合事業）		2
管理者会議（全体会議）		12
社会福祉士定例会		11
保健師定例会		2
主任ケアマネ定例会		12
民生委員連絡会議		9
生活支援体制整備事業（協議体）		9
家族介護教室・介護予防教室（主催）		0
各地域サロン・高齢福祉課各教室		11
地域ケア会議（個別）・コア会議		9
困難事例勉強会		3
ケアカンファレンス		2
CM研修会		1
外部研修会		8
認知症施策（見守りあんしん・学びの講座）		2